

令和２年度 学校経営計画及び学校評価

１ めざす学校像

創立 79 年の歴史と伝統のもと、落ち着いた学習環境の中で生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、将来の夢の実現に向けて生徒の「心幹」を育てます。「君にしかできない夢（こと）が泉大津（ここ）にある」をキャッチフレーズとし、将来の夢の実現に向けて取り組む生徒を育成します。
１）自らが抱いた「将来の夢」の実現に向けて、学力向上に積極的に取り組むことのできる生徒
２）他の生徒と協調・協力しつつ、校内外の活動（学級活動・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等）に積極的に取り組むことのできる生徒
３）答えが一つでない課題の解決に向け、積極的に取り組むことのできる生徒

２ 中期的目標

１ 確かな学力の育成
（１）「わかる授業」を土台に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりをめざす
ア 「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりの実践を進める。（学校全体の取組みとして実施する）
・生徒の主体的取組を引き出す授業づくり（AL 型授業）の実践と積み上げ
・授業での ICT 活用力の向上。※令和元年度電子黒板の全 HR 教室配置をいかし、教員半数以上の活用をめざす。
イ 「総合的な探究の時間」、「観点別評価」等を取組みを進める。前者の委員会と後者の授業研究チーム（仮称）を中心に成果を校内共有
※授業アンケートの平均点（H29=3. 04, H30=3. 11, R 1 =3. 09）を令和 4 年度までに 3. 15 以上とする。
（２）進路目標を達成できる学力を 3 年間で育成する
ア 基礎学力の定着と進路実現をめざした補習・講習の充実を図り、外部検定試験への挑戦を促す
・放課後や長期休業中の講習・補習の一層の充実
・外部検定試験の挑戦と合格を強力にサポート
※学校教育自己診断（生徒）「生徒の講習満足度」（H29=63%、H30=66%、R 1 =70%）を令和 4 年度には 70%以上を維持する。
※外部検定試験受験者と合格者を令和 4 年度までに 20%以上増やす。
２ 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現
（１）3 年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させた生徒育成プログラム（＝トータルキャリアプラン）の実行
ア 生徒が自らの生き方を考え、よりよく課題を解決できる力を育成する「総合的な探究の時間」の取組みを進める。
（２）生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的・計画的な進路指導
ア 学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、自己診断（生徒）進路情報肯定率を令和 4 年度までに 82%（H29：80%、H30：82%、R 1 年 79%）以上をめざす。
イ 学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実。
※ 3 年生 4 月当初の進学希望先調査を達成できた生徒の割合（H29：98%、H30：97%、R 1：97%）を令和 4 年度までに 99%以上をめざす。
就職内定率 100%を維持する。
３ 豊かな心の育成、自主性と規範意識の醸成
（１）生徒の規範意識を醸成し、個々の生徒への支援体制を強化する
ア 自主的に規律を守り、自らの行動を律する人をめざし、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
イ 全教員がカウンセリングマインドを持って生徒指導にあたる。
ウ 支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を充実する。
※学校教育自己診断（生徒）「生徒指導への満足度」（H29：52%、H30：47%、R 1：54%）R 1 生徒=54%を令和 4 年度までに 55%以上とする。
※〃自己診断（生徒・保護者）「教育相談への満足度」（生徒・保護者 H29：56・85%、H30：61・86%、R 1：60・84%）を令和 4 年度までに生徒・保護者 65%・85%以上とする。
（２）特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己肯定感を育み、連帯意識や公共精神を培う
ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で他者と協働する力を育む。
※〃自己診断（生徒）「学校行事への満足度」（体育祭・文化祭 H29：78・76%、H30：82・82%、R 1：84・81%）を令和 4 年度までに 85%以上とする。
※部活動加入率（H29=45. 8%）を令和 4 年度までに 50%以上とする。
４ 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上
（１）生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりの充実
ア いじめ・差別をしないさせない意識の醸成。教育相談体制の充実を進め、保護者や関係機関と連携を強化する。
イ 保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進める。
ウ 大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化を図る。
エ 個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する。
オ 教職員の多忙化解消に向け、業務の精選と校務運営の効率化を進める。
※〃自己診断（生徒）「人権に関する指導」（R 1 肯定率=90%）を令和 4 年度までに 88%以上を維持する。
※〃自己診断（教員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」（H29：64%、H30：55%、R 1：51%）令和 4 年度までに 60%以上とする。
（２）本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動の充実を図る
ア 中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信と緊急時の情報発信の充実。
イ 生徒体験型の中・高・大（専）の交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする。
※学校説明会参加者アンケートの肯定的評価（中学生）（H29：89%、H30：90%、R 1：92%）を令和 4 年度まで 90%以上を維持する。
（３）次世代を担う教員の指導力の総合的な育成
ア 次世代の新たな学びを育成する校内研修の充実と校外研修への参加と校内共有。
イ 初任から 10 年目まで連続した校内育成体制の充実。
※学校教育自己診断（教員）「経験の少ない教職員の育成」の肯定率を（H29：91%、H30：78%、R 1：62%）を令和 4 年度までに 80%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 2 年 11 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【中期的目標の項目に沿って結果分析】 １．「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりでは授業充実が一定進み、生徒評価も上昇した。 ２．コロナ禍の中で進路実現に向けて健闘している。トータルキャリアプランの精選と内容の充実に向けての検討を重ねる必要がある。 ３．生徒への丁寧な指導や教育相談支援体制の充実により、生徒指導に対する満足度も上昇した。 ４．コロナ禍の中、感染予防につとめながら体育祭、文化祭、修学旅行などの学校行事を実施することができた。生徒の主体的な活動を大切にすることで学校行事の満足度も高かった。 ５．コロナ禍により、残念ながら出前授業・クラブ交流などの中高連携の取り組みが実施できなかった。	【第 1 回】オンライン授業に向けた授業研究チームの取組みが、これまでの授業の課題を見つめ、生徒の主体的な学びにつながる授業充実へのチャンスだと考える。 トータルキャリアプランを柱にキャリア意識を生徒たちに育むことを中心軸として進めば分掌統廃合などの組織改編も良い方向で進むと考える。 【第 2 回】コロナ禍の中、生徒たちのために学校行事などできる限りのことをさせてあげたいという教職員の姿勢が、生徒たちの成長に大きくつながったと考える。 【第 3 回】新学習指導要領導入に向けた授業充実、スマートスクール推進事業の一人一台の端末の導入などにより、本校の教育力の向上を期待したい。また、トータルキャリアプラン、総合的な探究の時間などのキャリア教育の内容の発展により生徒の進路保障の充実をお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)主体的・対話的で深い学びを育む授業づくり ア主体的・対話的で深い学びの授業実践 イ「総合的な探究」「観点別評価」等の先取り (2)進路目標を達成できる学力の育成	(1)ア・生徒の主体的な取組みを引出すAL型授業づくりの実践を積み上げる ・授業でのICT活用力・ファシリテーション技術の向上(教職員のスキル向上) ・授業研究チーム(仮称)が中心となり、大阪府教育センターパッケージ研修による授業充実研修により観点別評価の調査研究を行い、授業充実を進める。(チームと教務部) イ・課題解決力の育成をめざす「総合的な探究の時間」の試行と検証、泉大津市など近隣の関係機関との連携充実と育みたい力の育成プロセスの見える化をはかる。 (2)ア・放課後や長期休業中の講習・補習の充実(進路指導部と教務部が連携して推進する) イ・大学検定試験をはじめとして入試を意識し、外部検定試験の挑戦を促し、合格をサポートする。(英検、漢検、数検(R1:60名、18名、0名)の受験者の増加	(1)ア・授業充実研修2回 ・授業アンケート平均3.12以上 イ・1・2・3年で実施 ※自己診断(生徒)「総合的探究が人生に役立つ」65%以上(R1:62%) ・授業研究チーム(仮称)、探究委員会の成果を授業充実研修で実施 (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「講習満足度」70%以上(R1:70%) ・長期休業中講習参加者58%以上(R1:57%) イ・英検、漢検、数検:60名以上、20名以上、5名以上(R1:60名、18名、0名)	1) ア・パッケージ研修による授業充実(オンライン)研修2回(○) ・授業アンケート3.09⇒3.15(◎) イ・総合的探究肯定評価62%⇒64%(○) 新カリ移行プロジェクトとして、IMPT(泉-OHTSU Methodプランニングチーム)(仮称)設置へ(○) (2) ア コロナ禍により、講習の実施、検定の支援が難しい状況にあった。 ・講習満足度66⇒62%(―) ・講習延べ参加57⇒19%(―) ・漢検20名、数検0名、英検0名 計20名受験(―)
2 「高い志」を育み、	(1)3年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させた生徒育成プログラム実行 (2)生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的・計画的な進路指導	(1)ア・トータルキャリアプランの精選と内容の充実はかる。「総合的な探究の時間」を連動し、生徒の課題解決能力を育てて、自らの夢を描き、実現する力を育む (2)ア・トータルキャリアプランを通じて、学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、生徒の進路実現の支援を行う。 イ・学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実で進路の実現を図る	(1)ア・1、2、3年生「総合的探究」の先行実施。検証と校内共有の研修実施 ※授業充実研修にて実施 (2) ア・自己診断(生)「進路情報」肯定80%以上(R1:79%) イ・3年4月進路希望の実現97%以上(R1:96.2%)、就職内定率100%維持	(1)ア・「総合的探究」オンライン授業研修のため校内研修実施できず(―) (2)ア・自己診断(生)「進路情報」肯定79%⇒80%(○) イ・進路希望実現96.7%(△) ・就職内定率100%(○)
3 豊かな心の育成、自主性と規範意識の醸成	(1)生徒の規範意識を醸成し、個々の生徒への支援体制を強化 (2)特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己肯定感を育み、連帯意識や公共精神を培う	(1)ア・身だしなみの意義を理解し、全校一致の目標(頭髪・制服等)を生徒と共有し、規範意識を醸成する ・問題行動等を生徒自らが考え、学校生活を落ちついた中で過ごせる支援の実施 ・自転車通学者のマナー指導での警察・外部と連携と体験的な交通安全講習会の実施 ・全生徒への「薬物乱用防止教室」の取組みと外部連携 (2)行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で他者と協働する力を育む ア・体育祭、文化祭を生徒会の自主的運営に委ねる ・生徒会・各クラス委員が連携し、教員とともに、「あいさつ運動」を継続展開し、あいさつのできる学校をめざす イ・生徒会が中心となり入学時からの取組みの充実を行い、部活動加入率を上げる ウ・生徒が自主的清掃活動に取り組むよう保健部が中心となって啓発活動を行う エ・さまざまなボランティア活動情報を提供し、参加生徒を募り参加させることで、自尊感情を高め、他者尊重の精神の涵養から社会に貢献できる人材育成を図る	(1)ア・年間遅刻件数の減少 R2:3000件以下(R1:2567件) ・体験的交通安全講習会1回以上 ・「薬物乱用防止教室」をAL型の取組み実施1回以上 ※自己診断(生)「生徒指導への満足度」肯定55%以上(R1:54%) (2) ア・自己診断(生)「生徒会活動」肯定率58%以上(R1:57%) ・自己診断(生)「行事の満足度」 体育祭・文化祭R2=82,85%以上(R1:81,84%) ・自己診断(生)「高校に入ってからあいさつするようになった」を72%以上(R1:71%) イ・1年生の部活動加入率55%以上(R1:55%) ・小・中学校との交流を種目・回数で増やす6クラブ、80回以上(R1:6クラブ、79回) ウ・自己診断(生)「清掃活動を積極的に行う」75%(R1:74%) エボランティア参加生徒8事業、50名以上(R1:6事業、79名)	(1)ア・遅刻2567件⇒2835件(△) ・生徒指導満足度54%⇒57%(◎) ・体験的交通安全講習会は、コロナの影響で体験的な講習形態では実施できなかった(―) ・薬物乱用防止教室1回実施(○) (2)ア・生徒会活動57%⇒58%(○) ※体育祭・文化祭満足度81,84%⇒,83%(◎)コロナ禍の中、知恵と工夫と熱意の結集した体育祭、文化祭を実施。体育祭は、11月に順延のためアンケート実施できず。 ※挨拶71⇒69%(△) 朝の挨拶運動実施できず イ・部加入55%⇒44.3%(△) 1年次の入部者の伸び悩み ・6クラブ79回⇒4クラブ18回(△) 女子バスケ、剣道など中学校と交流 コロナ禍の中、中学校との交流は限定的となった。 ウ・清掃活動74%⇒72%(△) エ・ボランティア6事業79名⇒2事業27名(△) 里山公園づくりボランティアに積極参加 コロナ禍の中、ボランティア活動は限定的となった。

府立泉大津高等学校

4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上	(1)生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりの充実 (2)本校の教育活動の積極的発信と広報活動の充実 (3)次世代を担う教員の指導力の総合的な育成	(1)ア いじめ・差別をしないさせない意識の醸成。支援教育コーディネーター、教育相談委員長を中心にコア会議を定期的 to 実施し、機動性のある教育相談体制を構築する。SC を 2 名体制とし、ケース会議を行い、福祉機関などと連携ははかつて具体的な支援を行う。 ・ 1 自己診断（生徒）「気軽に相談に乗ってくれる」 ・ 2 自己診断（生徒）「学校はいじめに真剣に対応」 ・ 3 自己診断（生徒）「人権を学ぶ機会ある」 イ 保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進める。 ・ 熱中・感染症、交通安全、薬乱、防災の指導の徹底と外部専門家と連携 ウ 大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化、安否確認等の Blog、E メール活用 エ 個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する。オ 学級減と教職員の多忙化解消に対応した分掌業務のスリム化を進める ・ 分掌業務精査と分掌統廃合を含む改革 ・ 教員の負担感の軽減と経験の少ない教員への支援 (2)ア 中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信と緊急時の情報発信の充実（E メッセージと緊急掲示板ブログ） イ 体験型の中・高・大（専）等との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする (3)ア 新たな学びを育成する校内研修の充実 ・ 授業研究チーム、探究委員会が中心となり、教務部と連携し、「AL 型授業」「観点別評価」「総合的な探究」の研究と実践、校内での共有 ・ 新学習指導要領等に係る校外研修への参加と校内共有 イ 初任から 10 年目までの校内育成体制の充実 ・ センター研修を軸に研究授業と協議の実施	(1)ア・人権研修 1 回以上 ・ 1 相談肯定 62%以上（R 1 :60%） ・ 2 いじめ対応 :72%以上（R 1 :72%） ・ 3 人権肯定 88%以上（R 1 :90%） イ・各指導 1 回以上 ・ 外部専門家活用 2 件以上 ウ・年度内に生徒備蓄を完了 ・ 教員体制の確認と連絡方法確立 ・ Blog、E メール活用充実 エ・校内研修 2 回以上 オ・業務内容の精選と分掌の統廃合 ・ 学校休業日（夏・冬期）とクラブ休業日 104 日の完全実施 ・ 時間外電話対応の軽減策 ・ 自己診断（教）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」肯定 52%以上（R 1 :51%） (2)ア・ブログ 200 回以上（R 1 :200 回） ・ 自己診断（生・保）「学校 HP をよく見る」30%以上（R 1 :25%） ・ E メッセージ登録 85%以上維持 イ・中学校出前の 2 回実施 ・ 多彩な学校交流 3 件以上 ・ 学校説明会アンケート参加中学生の肯定意見 90%以上（R 1 :93%） (3)ア・授業研究チーム（仮称）、探究委員会などの成果発表を授業充実研修として実施 2 回 イ・年 3 回のセンター研修と連携による研究授業と協議の実施	(1) ア・相談肯定 60%→61%（○） ・ いじめ対応 72%→73%（○） ・ 人権肯定 90%→87%（△） 定期的な会議設定、外部機関との連携など教育相談支援体制の充実 イ・外部専門家活用 1 件実施（○） 青少年サポートセンター（薬乱教室） ウ・ブロック塀をフェンスに置換 ・ 生徒備蓄完了（○） ・ E メッセージ 85%→97.6%（◎） エ・個人情報適正管理研修 1 回（△） オ・分掌の統廃合実施（◎） ・ クラブ休業日実施（○） ・ E メッセージによる欠席連絡を活用、時間外電話軽減 ・ 各種会議 51%→56%（○） (2)ア・ブログ 180 回→150 回（△） ・ HP 閲覧 25%→41%（○） イ 泉大津市連接中高連携協議会による出前授業、学校交流を実施 ・ 中学校出前授業 0 回（－） ・ 学校交流 0 回（－） 緊急事態宣言により、出前授業など実施不可となった。 ・ 学校説明会 93%→95%（◎） (3) ア・オンライン授業研修 2 回、観点別評価研修 1 回実施（◎） ・ 研究授業 4 回実施（○）
----------------------------	--	--	---	---